

令和3年度第1回坂戸市空き家等対策協議会会議録（書面協議）

- 1 書面協議通知日 令和3年10月1日（金）
- 2 出席者 9名
- 3 協議方法 坂戸市空き家等対策協議会の各委員に対し、書面で協議事項を通知し、書面表決書の提出を求めた。
- 4 送付資料 次第、委員名簿、資料、書面表決書
- 5 協議内容（委員の意見）
 - (1) 本市の空き家等対策の状況について
 - ・空き家実態調査での水道閉栓情報の活用は、よい取組だと思う。電気やガスの契約データの活用が出来ないものか。
 - ・管理不全の空き家として、草木の繁茂・越境があるかと思うが、管理依頼の通知の際にシルバー人材センターの紹介をしてみてもどうか。このような状態では空き家バンクへの登録も困難かと思われる。
 - ・現況の空き家対策では調査が主体であって解すべき問題が他にもあると思う。調査すべき地権者の連絡先や相続者との対話から解決方法を模索してほしい。
 - ・空き家対策は現状の空き家実態がどのような状況であるかを正しく確認することが基本だと考える。資料の数字を見ると調査方法の違いから大きな偏りがある。そこで、「坂戸方式」とでもいえるような調査方法を確立するため、まずは「水道の閉栓情報の活用」は結構なことと思う。私権問題やデータ収集の難易度もあるので、他のデータも補足して精度向上を図ることが妥当と考える。
 - (2) 坂戸市空家等対策計画の改定について
 - ・国のガイドラインも当然だと思うが、地方の事情（坂戸市）の事も考えなくてはならない。

(3) 自由意見

- ・今後、全国的ではあるが、坂戸市も例外ではなく今まで以上に空き家が数多く発生すると思われる。特に村部では後継者がいない家も数多くある。その辺の問題も非常に重要な所である。
- ・住宅政策課として努力していることに感謝しているが、今後においては、住宅の立地によって売りたいくても買い手のつかない「負動産化」する住宅が増加することが危惧される。本市も特に昭和40年代に開発した街でもあり、今後老いた住宅に老いた居住者が多くなるという空き家予備軍が大量に増加すると考える。高齢居住者の寿命が尽きた時、相続人が相続しない空き家が急増する事を懸念している。市として all 坂戸として、都市整備部だけでなく総合政策部以下全市をあげて将来の坂戸市像を考えて欲しい。